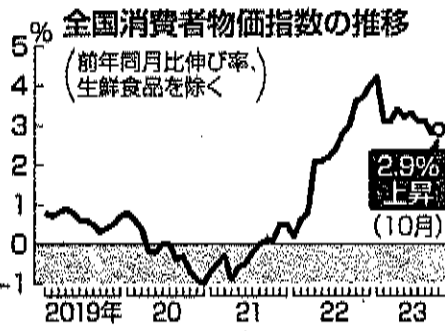


消費者物価 2.9% 上昇

10 月

総務省が24日発表した10月の全国消費者物価指数(2020年=100)

は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が106.4と、前年同月比2.9%上昇しました。上昇は26カ月連続で、伸び率は前



月の2.8%から拡大しました。拡大は4カ月ぶり。食料が高止まりしているほか、政府による電気ガス代の負担軽減策が縮小した影響で、エネルギー価格の下押し効果が弱まりました。

エネルギーは前年同月比8.7%の低下と、前月の11.7%から下落幅が縮まりました。政府のガソリン価格高騰対策によってガソリンの上昇は抑えられた一方、電気・ガス代負担軽減のための補助額が半減したことは価格の上昇方向に働きました。

生鮮食品を除く食料は7.6%の上昇。酒税法改正によるビールの値下げなどで上昇幅は縮小しました

が、依然高い水準です。

宿泊料は42.6%の上昇と、前月の17.9%から上げ幅を拡大しました。観光需要の回復に加え、政府の観光需要喚起策「全国旅行支援」による補助金が、一部を除いて終了した影響も出ました。

上昇率は、生活実感に近

い生鮮食品を含む総合指数

は猛暑で青果が値上がりし3.3%、生鮮食品とエネルギーを除く総合指数では4.0%でした。モノとサービスで分けると、モノは4.4%上昇。人件費の割合が高いサービスは2.1%と4カ月連続で2%台の伸びとなりました。

野菜高騰押し上げ スーパー売上高増

10月・3.3%

日本チェーンストア協会が22日発表した10月の全国スーパー売上高は、総額1兆1390億円でした。既存店ベースで前年同月比3.3%増と、8カ月連続のプラスとなりました。買い控えは続くものの、食料品の値上げに加え、野菜価格

が上昇していることで販売額が押し上げられました。

食料品は、天候要因による農産品高騰の影響が大きく、5.2%増でした。衣料品は高気温が続いて秋冬物が振るわず、5.9%減。住居関連品は3.0%の伸びで、ランドセルや化粧品の流れ行きが良くなりました。

記者会見した牧野剛専務理事は「実質賃金が下がっている状態が続くと、なかなか財布のひもは緩んでこない」と述べ、買い控え傾向は継続するとの見方を示しました。

ガソリン価格 2週連続で増

経済産業省が22日発表したレギュラーガソリンの店頭小売価格は、20日時点の全国平均で1円当たり173円70銭と前週比20銭上昇しました。小幅ながら2週連続の値上がりとなります。

地域別では上昇が19都府県、下落が19道県、横ばいが9県。長崎県(183円)や長野県(181円80銭)が高く、岩手県(167円10銭)や宮城県(167円20銭)が低水準でした。

原油相場の下落に伴い、政府が価格高騰対策で石油元売り会社に支給している補助金が目減りした影響で、ガソリン価格が値上がりしました。23日以降の支給額は、1円60銭減の23円50銭と減少が続きます。